

JGTOが公募したSNA Gゴルフ 京都の聾学校で実技講習



11月16日、JGCの構成団体のひとつであるJGTO(社団法人日本ゴルフツアー機構)が先に公募したSNA Gゴルフの寄贈先の一つ、京都府立聾学校で、早速児童に対して講習会が開催された。講習会の運営はJGCが担当し、インストラクターとして社団法人日本プロゴルフ協会ティーチングプロの佐藤裕児プロが担当、実兄の康孝さんがアシスタントを努め、パット、チップショット、ピッチショット、そして実践ラウンドなどの指導が1年生から6年生までの全生徒20名に対して行われた。

実は佐藤プロ、この聾学校に通う児童たちと同じ障害を持つプロで、2才のときに高熱により聴覚を失った。しかし持ち前の明るさと、目と目で通じ合える独特の魅力と、相手の心を開かせる不思議な力で人を惹きつけ、それを克服してきた。

講習では、お互いの障害を感じさせないすばらしい指導で、最初から児童たちのハートをつかんで溶け込み、ゴルフの楽しさを伝えた。佐藤プロは、時計の文字盤で振り幅を表現し、8時から4時の振り幅で教えるチップショットの際には、両手を時計の針に見立てて、「命」とユーモラスに表現し、児童たちからは笑いが起こり、楽しい雰囲気さがさらに和んだ。

News Topics

<November 17, 2006>



講習が始まる前には、1年生や2年生は集中力の持続から90分の講習は難しいかも、という先生方の心配もよそに、最後まで全ての学年の児童がボールとターゲットに向き合い、集中力を持続させた。これには先生方も驚いた様子だった。

全ての講習が終わり児童たちに、「あきらめないで前向きにがんばって」と激励のメッセージを贈り、そして、「楽しかったかな」と佐藤プロが右手を上げると、児童たちは右手を高く上げて応えた。更に佐藤プロが、「楽しかったかな」と、今度は両手を上げると、児童たちはジャンプをしながら両手を空高く上げ、体いっぱい楽しさを表現した。

